



Cornell University

2022年8月 馬淵祐太

船井情報科学振興財団 第11回報告書

Cornell University、Department of Neurobiology and Behavior に所属し、神経科学を専攻しています。Ph.D.6年目を迎えようとしており、前回の報告書に書いたときと同様に実験と論文の執筆に追われる日々を過ごしています。

1. 日常生活について

コロナウイルスによるパンデミックが始まって以降、幸いにも研究室内では感染者が一人も出ていなかったのですが、8月上旬に指導教官やポスドクなど複数の研究室メンバーが立て続けにコロナウイルスに感染してしまいました。Cornellでは室内でのマスクの着用義務はすでになくなっていたので、研究室内でもマスクを着用している人はほとんどいませんでした。さらに、感染したメンバーの中には、ラボミーティングを終えてみんなで昼食を取った後に体調に違和感を感じて、検査したところコロナに感染していたことが発覚した人もいたので、自分も心配になりましたが、幸いにも感染せずに済みました。個人的に、スーパーなど人が密集する場所ではまだマスクを着けるようにしていますが、それ以外の場面ではコロナによる規制はほぼなくなったほか、アメリカへの入国の際にワクチンを接種済みの場合は渡航前の陰性証明の提示も不要になったと聞いています。日常的にコロナを意識することが少なくなっていました。身近な人の感染や症状を目の当たりにして、改めて感染には気を付けようと思いました。

2. 研究生活について

先ほど書いたようにアメリカ国内ではコロナによる規制がかなり緩和されているので、3月には Cold Spring Harbor Laboratory という生物系の研究で有名な研究所で行われた "Neuronal Circuits" という神経回路を主とする学会に in person で参加し、ポスター発表をしました。研究室からは僕一人の参加で、学会に行くのも Ph.D.2年目のとき以来で学外にあまり知り合いがいなかったもので、参加前はやや不安でした。実際に行ってみると、参加者が300人程度と学会の規模が比較的小さく、"Neuronal Circuits" というかなり内容が絞られていたのもあって、興味のある発表がたくさんあり、いろいろな人とコミュニケーションを取ることができました。やはり Zoom 越しでなく、直接対面の方が断然話しやすいです。自分の発表に関しては、ほぼ絶え間なくポスターを見に来てもらえ、良いディスカッションができました。学会に参加したときは Ph.D.5年目の終盤だったのもあり、何

人かの人に卒業や今後の進路について聞かれ、ポスドクを検討していることを伝えると、研究室への勧誘をしてもらえたので、それを含めて発表は割とうまくいったのかと思っています。

前回の報告書では、前学期中には論文を書き終えて提出したいと書いていましたが、まだ提出できていません... 論文自体は9割方書き終えて、Figureもほぼ準備できているのですが、うまくいけば論文の質が上がるであろう最後の詰めの実験に四苦八苦しています。指導教官としても、そろそろ僕のPh.D.のメインのプロジェクトを終わらせたい思惑があるはずなので、何とか次の報告書までには論文を提出したいです。論文はほぼ仕上がっていると言いつつ続けた結果、いつになったら提出するのかと、同期の友達にもいじられるようになってきてしまったので、今度こそ終わらせられるように頑張ります。

3. 最後に

実験がうまくいかずストレスを感じることもありますが、幸運にも研究に集中できる日々を過ごしています。本当に感謝しております。最後になりましたが、常日頃よりご支援頂いている船井情報科学振興財団に感謝致します。